

(様式2)

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
23	川崎市立宮内中学校	大内 孝二

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
1. 礼儀正しく気力のある人になろう 2. 明るく健康で努力を惜しまない人になろう 3. 誠意があって責任を果たす人になろう 4. 勤労を愛し仕事を真剣にする人になろう	1. 子どもたちの成長を支援し、共に学び、共に育つ学校 2. 地域に根ざした開かれた特色ある学校	・一人一人の生徒を大切にすることで、喜びや楽しさを実感できる学校づくり・わかる授業、できる喜びを感じさせる学習指導の工夫と改善 ・学校評価等を生かした特別支援教育とキャリア在り方生き方教育を含めた総合的な学習の時間の推進 ・思いやりの心、協力することの大切さを知り、自他のよりよい関係を作ろうとする生徒の育成

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 教科・領域指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>「総合的な学習の時間」の推進</li> <li>「小中連携教育」の推進</li> <li>年次研修、授業研の推進</li> <li>授業力向上研修(評価評定)</li> <li>職員研修</li> <li>授業参観、オープンスクール</li> <li>学習相談</li> <li>研究推進の継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度までのキャリアあり方生き方教育の研究推進校としての取り組みを継続し、富士通やNPOと連携する中で、地域の特性を生かした多様な体験活動を行い総合的な学習の時間の新たな学習プログラムを作成することで、文部科学省から表彰された。</li> <li>計画的に各教科の校内授業研究会を取り入れ、指導力の向上を図ることができた。</li> <li>指導主事や大学教授を招き、学習指導要領に対応した評価評定の研修を実施することで、評価評定の課題解決につなげることができた。</li> <li>感染対策をさらに考慮した教育活動の実践と地域により開かれた学びの場づくりを推進した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度までは感染症拡大の関係から、小中連携推進の授業交流を進めることができなかったが、今年度より授業交流をはじめ、行事等で小中連携を推進した。この数年で子どもたちの活動状況や実態に変化があり、その状況をしっかりと分析することで今後の学校運営につながって行きたい。</li> <li>評価評定については、教科により授業時数が異なることや活動が多くある教科などもあり、個々の見取る技術に差があることを改めて感じた。講師を招いての校内授業研や評価評定の研修会を今後も実施していきたい。</li> <li>ケース会議や他機関との情報交換などの機会を増やし不登校生徒への支援体制を整えてきたが、個々の課題や家庭の状況などの違いから、保護者や生徒のニーズに応じることが難しいケースもあった。さらに、他機関等との連携を強化する中で、家庭訪問や面談等を定期的に行う必要がある。</li> </ul>
2 生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつの励行</li> <li>定期的な教育相談の実施</li> <li>計画的な職員研修の開催</li> <li>支援教育の充実と環境整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価からもわかるように、あいさつがしっかりできる学校となってきた。保護者や地域の力を借りる中で、教師が手本となつてあいさつなどの行動を示すことができた。</li> <li>今年度も教育相談アンケートを年間4回実施し、緊急事態等に応じたアンケートの実施や生徒指導を行うことで、生徒の生活環境や行動の背景への理解が深まり、問題行動の未然防止に努めることができた。</li> <li>学習室の整備や個々に対応するための時間割の工夫などを行い、支援コーディネーターの役割を明確にする中で、個々に応じた支援体制を整えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談活動を充実させることで得た情報を、職員間の「報・連・相」を密にして、共通理解を持ち予防的観点からの生徒指導を継続的にさらに推進していきたい。</li> <li>夏休みに実施している特別に支援が必要な生徒ならびに、学区の小中学生と保護者を対象とした進路説明会等の取り組みを充実させ、不登校生徒の登校支援を含めた進路指導を推進したい。</li> </ul>
3 文化・体育活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会活動、委員会活動</li> <li>部活動</li> <li>体育祭、文化祭、合唱コンクール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>GIGA端末を活用することで、生徒会や委員会の活動でペーパーレスにつなげることができた。</li> <li>体育祭、文化祭では、多くの取り組みでまだ制限がかかっているが、多くの行事で団結力や連帯感、さらに生徒の主体性を育成することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議や話し合いは少なくなる中で、生徒会本部と専門委員会が連携し、生徒会年間テーマに基づいた活動を推進したい。</li> <li>GIGA端末の活用で多くの行事でペーパーレスの取り組みを図ることができたが、各教科の授業や会議等でもペーパーレス化を図って行きたい。</li> </ul>
4 人権尊重・生命尊重教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育を充実させることにより、お互いに尊重し合い思いやりをもって接する人間関係の育成に取り組んだ。</li> <li>道徳の授業を実施するにあたり、学年ごとに教材や題材を共有するための打ち合わせや反省会などを行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育や「いのちの授業」を一層工夫し継続していくことを通じて、他者を思いやる気持ちの育成を図ることができたが、今後も継続してさらなる向上を図りたい。</li> </ul>
5 学校運営全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営の方針や取組の発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校通信、学年通信、学級通信を計画的に発行し、学校での生徒活動の様子を積極的に発信し、学校評価ではよい評価を得た。</li> <li>コミュニテースクールを計画的に開催し、地域や学識経験者から意見をいただく中で、地域に開かれた学校づくりを推進することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校ホームページを定期的に更新するなど、地域や保護者への発信方法をより工夫していきたい。</li> <li>今年度もGIGA端末やインターネットを使った学校評価アンケートを実施した。ペーパーレス化や仕事の軽減を図った。</li> <li>研修等を実施することで、今後も精度の高い評価の活用を考えていきたい。</li> </ul>

学校関係者の評価	今年度の学校経営のまとめ・次年度へ向けて
<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しい学校づくりを推進し、毎年3割近い生徒が代わる中で90%近い生徒が学校生活が楽しいと答えているのは、学校が生徒に寄り添った指導を心がけているからではないか。</li> <li>今年度の重点目標を達成させるために、学校が努力したことが分かった。</li> <li>わかる授業、できる喜びを感じさせる学習指導の工夫と改善という重点目標に沿った指導から、評価項目にある「学校が楽しい」という好結果になった。授業は大切だということが分かった。</li> <li>備考欄にある生徒や保護者からのコメントは、改善が必要なことは課題として取り組んでほしい。良い点については、さらに向上することを期待している。</li> <li>子どもたちが良く挨拶をしてくれる。生徒は行事や生徒活動に意欲的に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再任用教職員や経験豊富な教職員が校内授業研などで指導助言するなど積極的に関わることにより良い関係づくりや生徒指導等で成果となっている。</li> <li>学校評価の評価結果からも先生方の努力や頑張りが、子どもたちに反映していることがわかった。</li> <li>できることとできないことをしっかりと見極め、その場その場に応じた取り組みを行うことができた。</li> <li>さらに、より地域に開かれた学校づくりを推進するためにも、学校の経営方針や成果などを地域や保護者、生徒にも積極的に発信していきたい。</li> </ul>